

# 令和3年度 第1回「第Ⅱ期上士幌町総合戦略検証会議」議事概要

## 【日 時】

令和3年7月13日（火）13:30～15:00

## 【場 所】

生涯学習センター（わか）会議室1・2AB

## 【出席者】

35名（委員20名、関係課長等）

## 【議 事】

- (1) 第Ⅱ期上士幌町総合戦略検証会議設置要綱の制定及び委員紹介について
- (2) 令和2年度総合戦略に係る施策及び交付金事業の検証結果について

## 記

### 1 開 会（上士幌町企画財政課 井溪主幹）

- ・ただいまから、本年度第1回目となる「第Ⅱ期上士幌町総合戦略検証会議」を開催する。
- ・皆様、大変お忙しい中、ご出席いただきまして感謝。
- ・会を始めるにあたり、本検証会議の議長、竹中町長からご挨拶申し上げます。

### 2 挨 拶（上士幌町 竹中町長）

- ・これまでの地方創生の取組では、人口減少という大きな目標とそのために課題となる東京の一極集中を是正する政策、さらには、地域の経済を活発化させ雇用を生んで人が集うということが大きな柱であった。
- ・5年経過して、決して容易な取組ではなかったが、その中で3点ともクリアした。人口は増え、住民基本台帳ベースでいくと22人、社会増は200人であった。地方にとって避けられない少子高齢化の中での自然減を補って余りある社会増だった。経済面では、町民一人当たりの所得が増えてきている。
- ・上士幌町では、昭和30年をピークとして人口が減り始めたが、直近の国勢調査では5人増加。道内179自治体の中では、12の市町村が増えている。
- ・人口減少や雇用を妨げる一つとして、住環境の不足が挙げられるのではないかとことから、住宅に対する支援を行ってきた。その結果、この制度を使って400以上の住宅が建てられ、この5年間で300を超える世帯増となった。帯広に次いで世帯が増えたのが上士幌になる。4万人を超える音更や芽室、幕別よりも上士幌の世帯が増えている。大方が単身だと思うが、その中でも若者が増えており、やがてこの方々が縁あって結婚する人も出てくるといった期待もある。
- ・高齢化率が若干ではあるが、下がっているといった状況。あまり高齢化率の増減について新聞等で取り上げられていないが、面白い話題の一つだと考えている。
- ・第Ⅱ期が昨年からはまった。第Ⅰ期の検証を踏まえ、第Ⅱ期の戦略を策定しているが、今年は総合計画の策定もしており、それらと整合性を取りながら、実装に入っていくということである。
- ・第Ⅱ期総合戦略の中では、SDGsの取組を一つ象徴的に進めていきたいと考えている。国連サミットの中で決まった開発目標があるが、本町のまちづくりにとっても大切な課題だと思っている。教育、エネルギー、食料の問題、様々なことに挑戦するイノベーション、

ジェンダーの問題など、全て町にとっても重要な政策課題である。

- ・昨年、ジャパン SDGs アワードの内閣官房長官賞という非常に名誉ある賞をいただいた。全国の自治体では上士幌だけになる。さらに、本年5月には、内閣府のSDGs未来都市に選定され、その中でも全国のモデル事例になるということで、モデル事業にも上士幌町が選ばれている。
- ・こういったことを次の戦略の核にしなが、更に質の高いまちづくりを進めていき、その結果として、人口減少の歯止めや企業とのマッチング・連携に必ず繋がっていくものと考えている。
- ・もう一つは、Society5.0。地方にとって非常に不便なところがある交通面にしても、都市部との距離感、消費者との距離感、こういったものを縮めたり、農業の近代化を進める上でも、ICTは極めて重要なツール。これを福祉や教育など、様々な面に活用しながら、第Ⅱ期も具体的な成果を出していければと思っている。
- ・今日は、第Ⅱ期の目標を事務局の方から説明させていただき、この後の総合戦略の具体的な成果に向けて、関係者の力を借りながら進めてまいりたいと考えているので、よろしく願います。

### 3 議 事（上士幌町企画財政課 井溪主幹）

- (1) 第Ⅱ期上士幌町総合戦略検証会議設置要綱の制定及び委員紹介について
  - ・資料1及び2に基づき、設置要綱の制定及び委員を紹介。
- (2) 令和2年度総合戦略に係る施策及び交付金事業の検証結果について
  - ・資料3～6に基づき、施策の進捗状況や数値目標の達成率、評価結果、SDGsゴールとの関連性について説明。

### 4 質疑応答・意見交換

（上士幌町 竹中町長）

- ・膨大な資料の中から要点を説明したが、ついていくのも大変だったのかと思う。ご意見やご質問をいただきたいと思うが、いかがか。
- ・シェアオフィスのところで、サテライトオフィス開設の項目があるが、シェアオフィスの利用者数は、1年間の延べ利用者ということでよいか。

（上士幌町企画財政課 ICT推進室 梶室長）

- ・延べ利用者になる。サテライトオフィス8というのは年間契約をして、ある意味拠点を設けていただいている企業数。4月以降で更に4社増え、現時点では12企業ということになる。

（上士幌町 竹中町長）

- ・サテライトオフィスを実際に開設したということではなく、年間契約している会社が昨年8社、今年は12社になっているということ。できれば、こういった事を経験しながら、サテライトオフィスを独自に開設してもらおうというのが最終的な期待となる。その過程でシェアオフィスを使っている。アフターコロナの段階では、働き方改革等で大きく可能性と期待を寄せている事業の一つになる。
- ・無印良品と企業滞在型のオフィスを作るというのもあるが、これは短期から中期的に滞在する施設になってくる。移住定住もそうだが、様々な体験を通して完全移住に繋がる経験を得ている。お試し暮らしをして短期的に経験をして、更に冬や半年、1年を経験してそれで完全移住になるというプロセスが必要であるので、企業によってもそういう段取りが必要になってくると思う。

(十勝総合振興局 千葉課長)

- ・施策の推進について、数値としては良いなという印象。
- ・コロナ禍においては、交流人口や関係人口の創出部分は難しいと感じている。
- ・もう1点は企業版ふるさと納税。上士幌町はSDGsを含め、先駆的に取り組まれているので、一緒に取組を進めていけたらと思う。

(上士幌町 竹中町長)

- ・企業版ふるさと納税の話があったが、一般のふるさと納税はその町の特産品の返礼があるが企業版になるとそれがない。企業になると株主への説明や様々な手続きを踏んでいかないと寄付に繋がっていかない。よほどの理由がなければ、一般的にはいかない。
- ・そういった意味ではSDGsの大きな称号を得て、SDGsの先進地として本町があるとすれば、企業が連携したいというのは出てくると思う。既に担当者の方に企業から情報提供や問い合わせが来ていると話している。それが何か具体的に連携に繋がっていくかは別として、SDGsは大きな鍵になっているということである。
- ・今年首都圏の方からも企業版ふるさと納税をいただいたが、何十年か前に上士幌と縁があったということであり、そういった古くからの縁を引き継いで、寄付するという事例も出てきている。積極的に町の様々な情報を発信して、その中でお互いにwin-winの関係で繋がっていければと思っている。

(十勝毎日新聞社 平田記者)

- ・シェアオフィスができ、企業同士の交流や地元の人も加わって意見交換をしている姿を目にした。
- ・コロナ後を見据えたワーケーションの展開としては、上士幌町は良い形になっているのではと感じている。

(上士幌町農業協同組合 小椋代表理事組合長)

- ・様々な取組をされているが、何より人口増加に尽きる。
- ・元気のある町、ない町というのは、まず町に入った段階である程度感じるものがあるので、まちの景観について関係団体とも一緒になって取組を進めていただきたい。

(社会医療法人北斗 久保田理事)

- ・上士幌の取組や成果については、素晴らしいと常日頃思っているところ。
- ・人口を増やすという話が多いが、現に住んでいる方々が長い期間現役で元気に活躍できる環境を作ることも一つ。
- ・重度の介護認定者が少ないといった点とともに、介護人材の担い手育成について、見解をお聞きしたい。

(上士幌町保健福祉課 新井課長)

- ・健康寿命の延伸に力を入れており、要介護2以上の方の割合を減らすため、認知症予防や自立して生活できるようなサービスを展開。
- ・介護職の初任者研修をまちづくり会社で実施しており、合格者15名中介護職に就いた方は3名(町外)。それ以外の方もご家族の支援などにご活用していただけていると思う。

(上士幌町農業協同組合 猪狩女性部長)

- ・コロナ禍において、外国人従業員との交流が行われていなかったため、横の繋がりを持っていただけると長く上士幌にいてくれるのではないかと思います。

(上士幌町教育委員会 小堀教育長)

- ・これまで、地元の子どもと外国人の交流を行っていたが、昨年は実施できなかった。
- ・今年度については、新たに計画しているところであるが、事業所の方がまだ大人しくしておいた方が良いとの考えもあるので、もう少し状況を見ていきたい。

(上士幌町農業協同組合 小椋代表理事組合長)

- ・上士幌中学校から上士幌高校への進学率 50%を目標としているが、今後の対策についてお聞きしたい。

(上士幌町教育委員会 小堀教育長)

- ・昨年は7名、今年は11名の方が上士幌中学校から上士幌高校に入った。現役高校生や卒業生なども交えた魅力化プロジェクトチームを立ち上げ、高校の魅力化に向けて取り組んでいる。
- ・中学生と高校生による学習活動を取り入れるほか、高校生が地元で活躍できるプログラムを提供し、中学生と一緒に関わっていくなどの繋がりをもっていければと思っている。まずは地元の方に目を向けていただける取組を通じ、理解促進を図っていければと思う。

(北海道大学大学院工学研究院 森教授)

- ・当初伺った時から10年くらいになるが、まちの活動が順調に進められ、大変喜ばしく思っている。
- ・各施策の検証は、今後は相乗効果や相互連携などを図っていくと、より施策に深みが出るのではないかと思う。
- ・また、高齢化率の視点は大事であり、日本全体でも人口ピラミッドが今は逆ピラミッドになっているが、少なくとも釣り鐘型くらいにしていくような視点が必要。
- ・高校の話もあったが、この町で生まれた子ども達が町に戻り、このまま生活し続けたいと思えることが大事であるので、町民が誇りを持ってこの町に居続けたいといったところに視点を持ち取り組んでいただければと思う。

(上士幌町 竹中町長)

- ・予定した時間になったので、この辺でまとめさせていただく。
- ・総合計画の策定にあたり、昨年全町民にアンケート調査を実施した。10年前と同じ調査項目がいくつかあるが、住みやすいと答えた方の割合が10数パーセント増えた。この町に住んでいたいという方も増え、他所に行きたいという人が減っているという結果。まち全体の取組がこれに集約されるのではないかと思っている。今住んでいる方々が手応えを感じていい町だなというまちづくりを進めていければと思う。
- ・そうした中で戦略を着実に実行し、柔軟に対応しながら、前に前にというスタンスであれば可能性が広がると思っている。実質、今日が初めての第Ⅱ期の会議となるが、引き続き皆様と将来のまちづくりに向けた取組を進めていければと思う。

## 5 閉会（上士幌町企画財政課 井溪主幹）

- ・長時間にわたり、ご議論いただき感謝。
- ・本日いただいたご意見を踏まえ、進捗の管理、KPIをもとにした評価・検証をしっかりと行いながら、総合戦略に掲げる施策を着実に推進していきたいと考えているので、引き続きご協力をお願いします。
- ・次回検証会議については、12月頃予定しているが、改めてご案内させていただく。本日は、これにて閉会する。